

総合科学部 研究室紹介



文化プログラム

学 生

テーマである
「環境エコ」についての
伺いました。

研究室 A512

担当授業

人文地理学A (1)

地域地理学B (2)

文化と風土 (1・2)

コン 3)

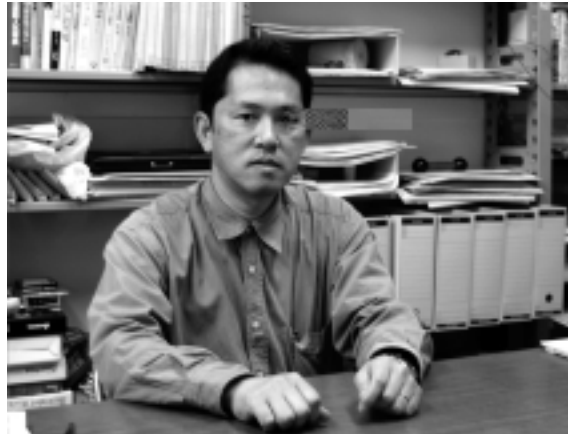
日本環境地誌 (4)

日本地誌研究演習 (5)

※ () 内はセメスター

オフィスアワー

木曜日 14:00~17:00



あさの
浅野

としひさ
敏久

研究室

地域文化プログラム

これが聞きたい！一問一答

◎趣味

自然観察・まちづくりの活動

◎自慢の品

旅行先のパンフレットや入場券

「ほぼ価値もないし自 も も
ないけれ 笑う い ず い
うね (笑)。」

◎好きな食べ物 何でもOK

「特にこれ 変、
てしまうっていうのはないね (笑)。」

◎好きなテレビ番組

バラエティ・自然関係

◎好きな本 時代小説

◎好きなスポーツ 散歩

「よくその辺を散歩しています。あと、今はしていないけど、昔は陸上で競歩をやっていました。」

◎好きな言葉

人間万事塞翁が馬

◎広大の中で好きな

思案橋から寮までの、川沿いの道

「子供を連れてよく歩きます。季節が変わると様子も変わってくるし、そういうの

◎総合科学部で特徴的だと思う点

色々な分野の人がいるところ。特に、理系と文系の人と同じくらいずついるところ。

キャンパスを飛び出して将来の財産を見つけよう

研究内容

育の活動といった市民運動 市民活動
象に、それらが地域とどういう関わりをして
いるのかを研究しています。専門は地理
学なので、地理的な観点でやってい
うことになるかなと思います。

「地理的な観点とはどういうものですか？」

それは地域との関わり方、といった意味
です。例えば海や湖の埋め立てをしよう
という話を持ち上がった時、生き物を守れ
といった声が強い地域があれば、公共事業
による雇用の
す。逆にこれらのことが問題にならない地
域もあり、その違い
地域の社会的あるいは
しているわけです。公共事業で言えば、地
方では雇用問題は深刻ですが大都市など
は公共事業の削減に論点が行くでし

自然を壊していくのは同じでも、環境問
題ので
す。問題提起を研究者や行政がする場合も
あるけれど、僕自身は住民や市民が何を言
い出していくのかというところから問題の
でき方を研究しています。地
じて問題の成り立
点に注目することが、「地域的・地理的な
観点」から見えていくことになるのか
などと思います。

研究室 C701

担当授業

教養ゼミ (1)

情報活用基礎 (1)

コンピュータ・プログラミング

(1・2)

プログラム技法 (3)

3)

プログラ (4)

※ () 内はセメスター

オフィスアワー

金曜日 16:00~17:00



もりもと
森本
やすひこ
康彦
数理情報科
研究室

これが聞きたい

◎趣味

マラソン・観葉植物・鉄道
「マラソンを始めたきっかけはダイエットでしたが、今は楽しんで走っています。また、僕はRのおよそ6割は乗りました。」

◎自慢の品

ネックレス・参加したマラソンのゼッケン
「ただのネックレスじゃなくて、双子のマナカナちゃんから直接もらったものなんですよ。」

◎好き

「東京・神奈川エリアの有名店は大体行きました。」

◎好きなテレビ番組

水

◎好きな有名人 大泉洋・上戸彩

◎好きな音楽 スガシカオの曲

◎好きな本 村上春樹・宮本輝の本

「東京に住んでいたころ、村上春樹とはご近所でした。会ったことはありけど。」

◎好きな言葉

Research is what happens to you while you're busy solving other problems.

(ジョン・レノンの「Life is ... busy making other plans.」か)

◎広大の中で好きな

ぶどう池のほとり

◎総合科学部で特徴的だと思う点

様々な分野の先生が1つの組織にいるところ

僕は、「研究のための研究」ではなく「社会のための研究」ができる学者でありたいと思っています。

研究内容

専門はデータマイニングです

すく言えば、データに埋もれた知

してゆく学問です。広大に来る前は、IBM

に勤めていました。IBMの当時のビジ

ネスの柱は大型コンピュータでしたが、こ

れらの大規模なコンピュータに蓄積されて

いる大量の情報から、特徴的なパターンを

るために発展してきた技術のことを指しま

す。この分野の研究成果をもとに、その

後、グーグル等のネット検索ビジネスが誕

生しています。現在では、ネット上の膨大

な情報からいかに有用な知識を発見してゆ

くかが大きな課題になっています。

研究への道のり

僕

は 三年次から(総合科学部で言うところ

の)プログラムに分かれます。その過程で、

三、四年次くらいからコンピュータに興味

を持つようになりました。学生時代はES

Sというサークルで、英語で

していました。その中にはアメリカで仕事

をしたという人が多くいました。一方、

僕は一度も外国に行ったことがないだけ

はなく、飛行機にすら乗ったことがありま

研 A817

担当授

ベーシック・ドイツ語Ⅰ (1)
 宗教学A (1)
 ベーシック・ドイツ語Ⅱ (2)
 宗教学B (2)
 聖書の人間理解 (1・2)
 キリスト教思想 (3)
 キリスト教思想演習 (4)
 ※ () 内はセメスター
オフィスアワー
 木曜日 12:50~14:20



辻

まなぶ

人間文化プログラム

学

研究室

これが聞きたい！一問一答

◎趣味 野球観戦

「夫婦そろって阪神ファンです。夫婦で見に行くのがとても楽しいんですよ。」

◎好きな食べ物

ラーメン、スパゲッティ。和食も。

「広島は食に恵まれていますね。」

◎好きなスポーツ アメフト

「高校時代、ラインバッカーをやっていた」

◎好きな有名人

最近では阪神の金本知憲選手

「自分に厳しく人格者。そこがすばらしい！」

◎好きな音楽

青春時代…サザンオールスターズ

仕事中…ジャズをもっぱら聴く

マイブーム…平井堅

◎好きな言葉 実事求是

「事実の実証に基づいて物事の真理を追

la place (中央図書館前のカフェ)

◎総合科

大所帯で、教員の数がすごく多いところ。

「1学年で見ると先生1人につき学生1人くらい。これっ

部の先生を知るのには難しいけれど、その気になれば自分の興味のある分野の先生と関わ

このチャンスを大事に生かした方がいいですよ。」

過去から未来へとずっと続く時間、自分には見えていない空間や、人とのつながり、その中に自分がある。

研究内容

キリスト教、特に新約聖書についての研究を行っています。新約聖書に収録されている文書がどういう状

として書かれたかを考察すると同時に、一世紀のキリスト教が生まれてきた背景の分

内容を分析することと同時に、その背景の歴史状況を考えていくわけです。また、新約聖書のテキストが現代の我々にどのような意味を生み出すかという「解釈学」の問題にも関心を持っています。

研究への道のり

父親が牧師で、教会の中で育ちました。

ですから、「キリスト教とは何か」とか「聖書とは何か？」というのを改めて考

えることも全くありませんでした。最初は牧師になるつもりでした。そのためには、

キリスト教や聖書について、自分の言葉で理解し説明できるようにすることが必要で

す。牧師の資格を取るため、大学は神学部に進みました。

ある日のこと、大学の図書館の書庫に

入って神学の本をずっと眺めていると、なんともしえない幸福感を覚え、研究が自分

に合っているのではないかと思ひ

それで大学院の前期課程、さらに 期課程

研究室 C402

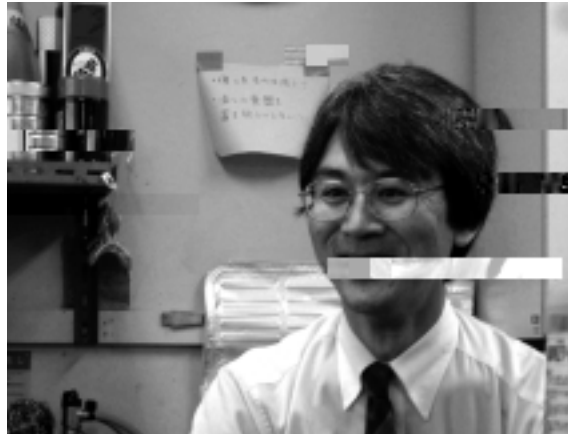
担当授業

世界の自然と環境問題（1）
生態学（2）
環境とエコロジー（3）
生物学実験法・同実験
（2・3）

※（ ）内はセメスター

オフィスアワー

月・火曜日 11:00~12:00



自然環境科学プログラム
中坪 孝之 研究室

これが聞きたい！一問一答

◎趣味

登山・園芸・釣り・フルート演奏・音楽鑑賞

「休日にはできる限り家族で過ごしたいと思っていますが、多趣味のためかなり忙しいです。」

◎特技

「実は広大古武道部の部長です。フルートは自己流。」

◎自慢の品 国内外の博物グッズ

◎好きな食べ物 魚介料理・お酒

「おいしいものは何も。」

◎好きなテレビ番組

ダーウィンが来た

「家族みんなで見ています。」

◎好きな有名人

ナイジェ・エドゥアール（プロデューサー）

◎好きな音楽 クラシック全般

◎好きな本 フェアブル昆虫記

◎好きなスポーツ

やるなら古武道、見るなら野球
「もちろんカープファン！」

◎好きな言葉

あなたが見たいと思う世界の変化に、あなた自身がなりなさい。（ガンジー）

総合博物館・発見の小径

◎総合科学部で特徴的だと思う点

既存の学問の壁にとらわれなくてよいところ

自分やるべきことは自ずと見えてきます。

研究内容

専門は

は

とする各種の荒原生態系と、河口を含む河川流域を対象に、生態系を構成するさまざまな生物にスポットをあて、その生物の生理生態

生態

河後退域の生態系に対する環境変動の影響について特に力を入れています。

研究への道のり

物心がついたときから「生き物」好きで、

学年くらのときに『フェアブル昆虫記』を読んだからは、昆虫の
中するようになりました。卒業文集では、
将来の夢として「昆虫学者」を挙げています。中学・高校時代は、昆虫採集を続けながら、新たに海辺や高山など、厳しい環境に生きる生物に興味を持つようになりました。そして、大学から大学院にかけて、具体的に極地や高山の植物の研究を始め、現在の研究にたどり着きました。その意味では、自分の思い通りの方向に進んできたといえるでしょう。

研究の中での「総合科学」

私は

半か

うちに日本でも「環境」の時代が来るであ

